

令和5年度 学校評価報告書

学校教育目標	持てる力を最大限に発揮し、主体的にかつ個性豊かに社会へ自立していく児童生徒の育成			重点目標	「生活する力」を身に付けていく児童生徒の育成 －「考える」「伝える」「生活に生かす」力を育む授業づくり－			
	評価計画				自己評価	学校関係者評価		改善計画
重点目標に関する評価	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)
	授業改善の日常化	・ 個別の指導計画に基づく指導の充実	・ 個別の課題を基に学びの連続性を大切に、「何を学ぶか」を明確にした全児童生徒の個別の指導計画の作成と実施・評価・改善に基づく教育課程の展開(教育課程評価2.7)	・ 4	○ 児童生徒の実態を把握して、個別の指導計画を毎学期作成し、随時見直しをしながら、目標達成に向けて実施・評価・改善を行うことができた。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 個別の指導計画の引き継ぎを確実に行うことが大切である。	・ 重点目標である「生活する力」を身に付けた児童生徒の具体的な姿を共有し、常に意識するための工夫
		・ 活動や操作を通して主体的に考えることができる授業づくりや、ICT担当者を中心としたICTを活用した学習環境整備の推進	・ 考えの場面や実践する活動を位置づけた授業改善(教育課程評価2.7) ・ ICTを効果的に活用した学習づくり(教育課程評価2.7)	・ 3	○ 授業研究会を通して、職員同士で授業を見合い、意見交換を行うことで、授業改善が見られた。ICT担当者が相談窓口となることで、ICTを活用した学習に取り組む学級が増えている。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ ICTの推進が少しずつ図られており、社会のニーズや個別最適化の点からも価値がある。	・ 重点目標の副題「考える」「伝える」「生活に生かす」力を育むための場面設定の位置づけ
		・ 学習のねらいが明確で「わかった、できた」を実感させる授業づくり	・ 学習のねらいに応じためあての提示とまとめ、会話や対話、生活と関係づけた場面の設定(教育課程評価2.7)	・ 3	○ 校内研修や授業研究会等を通して、必然性のある「めあて」の提示をおこなうことで学習意欲を持続させるようにする授業づくりができてきた。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 先生方たちの4評価が多いことは素晴らしい。研修の充実を感じる。	・ 日常的な授業における、導入の工夫と必然性のある「めあて」の提示
	交流及び共同学習の推進	・ 「思いやり・いたわり・優しさ」を育てる学習の充実	・ 学校間交流・居住地校交流・地域交流・市民交流などの交流及び共同学習の積極的な設定と、ESDで重視する能力や態度の育成(教育課程評価2.7)	・ 4	○ 天の原小、宮原中、有明高専との交流及び居住地校交流も積極的に実施し、コミュニケーション力や協力する態度を身に付けることができた。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 発達段階に即した交流がなされている。ねらいも大切である。 ・ 学校同士の話し合いができてきた。	・ 交流及び共同学習における教科等のねらいを達成するための活動内容の工夫
		・ 地域のひとつの・ものを活かした学習の充実	・ 地域の消防や市役所職員等のゲストティーチャーの招聘と連携・協働(教育課程評価2.7)	・ 3	○ 勝立の消防の方を招聘し、救急車体験を実施したり、市役所職員の方を招聘し、環境学習を実施した。GT招聘の際は、事前の打合せをし、連携・協働に努めた。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 今後も、地域のひとつの・ことを活かした学習の充実に努めてほしい。	・ 教科等のねらいの達成も含む地域のひとつの・ものの発掘
	専門性とセンター的機能の向上	・ 「つながり」を大切にした計画的、組織的な学校間交流、居住地校交流の充実	・ 学校間による事前打合せの実施と、次の交流につながる事後指導(メッセージや作品交流等)(教育課程評価2.7)	・ 3	○ 交流の際は、打合せを十分にしている。3学期は、天の原小との遊ぼう交流、宮原中とのDVDによる交流を実施した。新潟の見附特支との作品交流も継続して実施した。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 子どもたちは楽しく交流ができてきた。 ・ 引き続き、事前打合せ、事後振り返りと改善を実施してほしい。	・ 充実した学校間交流のために、必要に応じて、本校職員における小・中学校へ向けての事前学習の実施
		・ 障害の状態、特性に応じた指導の工夫	・ 教材教具交流会や、講師を招聘した事例研修会、体の動き研修会、校内特別支援教育研修会を通じた理論研究と実践(教育課程評価2.7)	・ 3	○ 講師招聘研修会(SC高鍋氏・「ぼるむ」伊藤氏)、体の動き研修会、校内特別支援教育研修会等実施することができた。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 引き継ぎ等を確実にし、同じベクトルで指導に当たることが大切。	・ ICT担当者を中心とした授業におけるICT活用の推進と情報収集及び情報提供
		・ 外部専門家の活用	・ 作業療法士や理学療法士等の専門家を招聘した研修会やリハビリ見学を通じた連携(教育課程評価2.7)	・ 3	○ 常葉大やアフラ、りんどうの森等の専門家を招聘し、専門性の向上を図った。 △ 全職員が体の動きについて対応できるようにするため、全体で共有する場の設定	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 子どもの実態に応じて、幅広く専門家を招聘した方がいい。	・ 外部の専門性から学んだことを可視化し、校内で共有するための環境設定(場・時間)
	いじめの早期発見と早期対応	・ 人権教育の目標を踏まえた道徳教育の推進	・ 教育活動全体を通じた道徳教育の推進、人権に関する研修の実施(教育課程評価2.7)	・ 4	○ 道徳教育については、教育活動全体を通して行われている。本年度は、中学部を中心に、特別の教科道徳の実践が広がっている。人権に関する研修は、人権レポートの作成・発表や外部研修会へ計画的に参加している。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 教育活動全体を通して、意図的・計画的に実施できているのが素晴らしい。	・ 小学部における「特別の教科道徳」の推進
・ いじめの早期発見、早期対応の充実		・ 校内支援委員会・日常観察・アンケート、教育相談を通じた情報の収集と、保護者との連携(教育課程評価2.7)	・ 3	○ 報告・連絡・相談を大切にしている。(高)毎月いじめアンケート実施。(小・中)日常観察や連絡帳を通じた情報収集及び保護者との連携に努めている。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 嫌なことがあったことを、伝える力の育成も必要である。	・ いじめの未然防止に努める。学級の支持的風土を育成するための、自己存在感をもたせる関わりや自己決定の場の設定	
家庭・関係機関等との連携協力	・ 家庭と連携した基本的な生活習慣の育成 ・ ふくおかアクション3の実施 ・ スクールカウンセラー、関係機関の活用	・ 連絡帳や通信などを通じた、家庭との情報共有や関係機関との連携(教育課程評価2.7)	・ 4	○ 毎月、全学部通信を発行し、学校での取組や児童生徒の様子を伝えている。SCには、特に高等部の生徒に対して重点的に関わってもらい、対応の仕方を職員で共有している。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 言葉を楽しまない子どももいるので、日常的な観察と些細なことでも報告をお願いしたい。	・ SCの積極的活用とともにSSWの活用を推進する等、関係機関との連携に努める。	
	・ 個別の教育支援計画等を活用した連携協力	・ 懇談会、情報交換会等を通じた家庭・関係機関等と児童生徒の教育的ニーズや支援方法の共通理解(教育課程評価2.7)	・ 3	○ 関係機関等とのケース会議を実施し、対応について共通理解を図ることを通じて、不登校傾向に乏した児童が学校へ登校できるようになった。 △ 個別の教育支援計画等は、適宜修正加筆していく。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 連携して対応できていることがよい。他の児童生徒にも広げてほしい。	・ 関係機関と連携しながら児童生徒の実態把握に努め、最適な支援方法を考えて実施する。	
働き方改革	・ 水曜日を定時退校日とする。 ・ 勤務日は20時までに退校する。 ・ 長期休業に6日の閉庁日を設定する。	・ 月に3回以上実施 ・ 1日9割以上の職員が実施 ・ 完全実施	・ 4	○ 長期休業中の学校閉庁日の設定については、100%実施できた。定時退校や勤務日の20時までの退校については、ほぼ実施できている。 △ 20時までの退校は、年度初めや学期末等時期によって難しいこともある。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 少しでも早く帰宅を。 ・ 退校時刻を留守電の設定に合わせる。(令和6年度より18時)	・ 会議資料のペーパーレス化とともに共同編集機能の活用等ICTを活用した校務運営の推進	

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

令和5年度 学校評価報告書

Table with 8 main columns: 評価計画, 自己評価, 学校関係者評価, 改善計画. It contains detailed evaluation data for various school activities and areas.

◇ 評価について
・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価はほぼ適切である C：自己評価はあまり適切でない D：自己評価は不適切である